一般社団法人日本ファームステイ協会よりご案内

【JPCSA 通信 Vol.8】

2019 年 4 月 15 日発行

会員各位

一般社団法人日本ファームステイ協会事務局です。 いつも当会の活動にご理解頂き、誠にありがとうございます。

東京は平成最後の桜のピークが過ぎ、街路樹の青葉が目に心地良い季節を迎えております。 また、街中ではフレッシュな新社会人の姿をあちこちで見かけるようになり、こちらまで 清々しい気持ちになります。

皆様はどのようなことで春の訪れを感じられているでしょうか。

さて、今回は JPCSA 最新情報、農泊関連情報をお届け致します。

<JPCSA 最新情報>

◆講演・研修コンテンツのご案内

当会では、農泊に取り組まれる会員様のニーズに応じた『人材育成研修プログラム』 の提供を行っており、当会や賛助会員各社が提供しております。

随時プログラムを追加・更新しておりますので、ぜひご活用ください。 こちらの詳細およびお申し込みにつきましては、以下をご覧ください。

人材育成研修プログラムのページ: https://jpcsa.org/workshop/

<農泊関連情報>

◆『未来ある村 日本農泊連合』が設立されました。

本年3月に、『未来ある村 日本農泊連合』が設立されました。 1996年より長きに亘り、大分県安心院町にて農泊の推進に取り組んできた宮田 静一会長を中心として活動を行う『安心院グリーンツーリズム研究会』が設立発起人を務める全国組織です。

団体の活動として、

- ①農泊の推進・普及のためのシンポジウム・研修会等の開催
- ②都市と農村を同時に救う欧州のような長期休暇制度(バカンス法)の必要性をアピール
- ③親でも学校でもない『第3の教育』農泊教育旅行の重要性をアピール
- ④農泊の質の向上・推進・連携のため『農泊推奨の証』農泊家庭への表示 を掲げています。

また、同連合は都市の家主不在型民泊と、農村にて心の交流で宿泊を行う農泊を明確化させることも一つの目標として示しています。

3月16、17日に開催された結成記念シンポジウムには、当会の上山代表理事も来賓

としてお招きいただき、ご紹介いただきました。

このような団体が増えることにより、国内での農泊・ファームステイの認知度向上 や地域振興がより一層促進されるよう当会も力を尽くしてまいります。

未来ある村 日本農泊連合のページ: http://www.ajimu-qt.jp/

<正会員の取組事例紹介>

今号より、当会正会員様の活動の事例紹介を掲載してまいります。

全国各地において農泊に従事する事業者様、農泊事業を営む法人また団体様である 正会員様の情報が少しでも他の地域の皆様にとってのヒントとなればと思っておりま す。初回となる今回は、丘のまちびえい活性化協会様より情報をご提供いただきまし た。

◆北海道上川郡美瑛町 丘のまちびえい活性化協会

ご対応:事業係長泉剛生様

協会 HP: https://mybiei.jp/

美瑛町とは…

美瑛は、十勝岳連峰を背景に、雄大な自然と農家(ひと)の営みが織りなす美しい丘の農業景観が誇りです。

さまざまな農作物の彩が織りなすパッチワークの丘には、じゃがいもの花が丘一面に 咲きほこり、小麦が黄金色に輝き、緑肥のキカラシやヒマワリは黄色いじゅうたんの ように広がります。

同じ畑に同じ作物を続けて作らない輪作により、毎年異なる彩が丘をより魅力的に演出しています。

自然と農家が長い年月をかけて生み出した作品としての美瑛という町は、日常と非日常、文明と自然の調和であり、人々に癒しを与える心の原風景です。

「日本で最も美しい村」連合の発起人としても、持続可能な発展を目指し、この美しい景観を後世に残していきたいと願っています。





Q1. 美瑛で取り組まれている農泊の魅力を教えてください。

美瑛は、美しい丘の上で営まれる農業の景観が最大の魅力です。この丘の四季の 移ろいや、様々な農作物が生み出す色彩はパッチワークのようだと称されていま す。この景観を楽しむ体験コンテンツやペンションなどの宿泊施設も充実してい ます。

Q2. どのような旅行者をターゲットにされているのですか?

観光客へのアンケート調査を通して、特に30~40代女性の来訪が多いことがわかってきました。こうした女性層を意識したPRを行っていき、訪れたいと思っていただけるような魅力づくりをしていきたいと考えています。

Q3. そのターゲットを呼び込むために、どのような取り組みを行っていらっしゃいますか?

例えば、こうした女性層に響くおしゃれな宿や美味しいカフェ、かわいい雑貨やインスタ映えする景色などをピックアップして紹介し、情報発信や体験プラン作りなどを積極的に展開していきたいと考えています。

Q4. 農泊に取り組むにあたって苦労されたエピソードを教えてください。

やはり、体験プランにご協力をいただくための生産農家さん探しや説明などは苦労しました。また、新しい取り組みにチャレンジするにあたって、なかなか周囲の理解を得られないという難しさを痛感しています。

Q5. これからのビジョンをお聞かせください。

美瑛はこれまで、見るだけ、写真を撮るだけの通過型観光地という課題と、観光客が畑に踏み入って写真を撮る観光マナー問題が影を落としていました。この美しい景観を形作っているのが農業であり、1人1人の農家さんであるという事実をわかりやすく伝え、少しでも多くの方に知っていただくことで、観光マナーの向上を促し、パッチワークの丘の景観を後世に残していけるよう努力していきたいと考えています。













夏だけではなく、冬の農泊にも力を入れています。

く賛助会員からのお知らせ>

◆株式会社農協観光の地域交流事業ご紹介

当会発起人の一社である株式会社農協観光は、食と農を基軸とした地域交流事業の一環として、全国各地の農泊地域で体制整備等の支援をしています。また旅行会社として支援先の地域への継続的な送客にも力を入れており、現在その一環で、『ゴールデンウイーク 農家民泊宿泊プラン』の販売を行っています。

(今後も休暇シーズンに合わせて継続的に実施予定)

〇農家民泊宿泊プランの詳細

http://green.jointly.hyakuren.org/event/5ca1d1e06462310b7d703600

※お申込締切 4月23日(火)

本トピックに関わることは農協観光へお問い合わせください。
【お問い合わせ先】

株式会社農協観光 地域交流推進室 地域交流推進課 前場

TEL: 03-5297-0309 mail : zemba@ntour.co.jp

いかがでしたでしょうか?

最後までお読みいただきありがとうございました。

当会では随時会員を募集しております。

皆様の周りに農泊に取組中、またはご関心をお持ちの方がいらっしゃいましたら、当会をご紹介いただけますと幸いです。

ご質問等ございましたら、お気軽にお問い合わせください。

また、こちらのメールマガジン上で、会員様が実施されます農泊関連イベントや研修の告知を承ります。掲載のご希望がございましたら、送信希望月の1カ月前までに下記 E-mail へご連絡をお願い致します。受信後、当会担当者よりご連絡をさせていただきます。

発行:一般社団法人日本ファームステイ協会事務局

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-17-2 (TEL:03-3526-2493 / FAX:03-3526-2494) ホームページ URL はこちら:https://jpcsa.org/

問い合わせ先 E-mail:info@jpcsa.org